



いろはにほんご教室

NY育英学園では、2013年度より「いろはにほんご教室」を開設しました。本学園独自のカリキュラムに加え、より多くの皆様がそれぞれの能力に応じて日本語を学習することができるメソッド、**いろはにJNK**を立ち上げました。平日・週末、お住いの地域に合わせて順次開講中です。また、年3回のワークショップやサマーデイキャンプでのアフタープログラム（本誌P.5参照）もご用意しております。お子様に合ったクラスをご紹介しますので、まずはお気軽にお問い合わせください。

ニューヨーク（マンハッタン、ポートワシントン）とニューヨークで受講できます。

① ジャパニーズ (Japanese)

日本語を第2外国語 (JSL/JFL) として学びたい子や、一度も日本語を学んだことがない子のためのクラスです。個人で受講できるチュータリングクラスもお勧めです。

② ニホンゴ (Nihongo/日本語)

日本語の読み書きを中心に勉強をします。日本語を教科として学習したことがないけれども、ある程度の会話ができるお子様が、日本語を基礎から学ぶことができます。

③ コクゴ (Kokugo/国語)

国語としての日本語を勉強します。文部科学省検定済みの教科書をもとに、「読む」「書く」「話す」「聞く」を学びます。サタデー・サンデースクールやアフタースクールとは違い日本式学齢にとらわれずに、もっとゆっくり国語学習に取り組みたいというお子様に適しています。

いろは日本語教室のJSL土曜日チュータリングクラスでは...

「いつ?」 毎週土曜日。1クラス70分。
「どんなテキストを使っているの?」 Kana Workbook, Japanese For Young People I, Student Book, 等。
「どんな勉強をしているの?」 (※一例です)

- ・「挨拶」
- ・フラッシュカードで習った単語の復習
- ・パワーポイントを使って文法の確認、短文作成
- ・季節や行事に応じた日本文化理解、日常の日本文化理解 (買い物など)



お問い合わせ
いろはにほんご教室
担当: 牧野 佳代子

～学園の宝～

私共の Japanese Children's Society は開園当時「よい子の幼稚園」と呼ばれていました。その後アフタースクールの小学部ができたところで、「よい子の学園」と学園名称の上でも成長しました。今から35年前のことです。その頃の園児たちからは、現在、弁護士、医師、学校経営者等々、世の中の為になる社会人が多く出てきました。学園の成長と園児たちの成長に、心より誇らしく思うこの頃であります。最近特にNJ校では、毎月何組かの嬉しい訪問を受けます。10年前、20年前そして30年前の懐かしい卒園児達です。学園は、土曜にはサタデースクール、日曜もサンデースクールと、週7日間開いています。元園児達のほとんどはアポイント無しでのサプライズ訪問です。しかし、その時その時で、昔からいるスタッフが集まり、ミニ同窓会になります。懐かしい教室を訪ね、在校生や先生達と語り合い、満足気な顔での記念写真となります。日本からわざわざ来てくれた元園児の皆さん、ありがとう。

嬉しいことがあった時も悲しいことがあった時も、学園に寄ってみて下さい。そして自分の原点に帰ってみて下さい。学園職員一同、皆さんを待っています。皆さんは学園の宝です。

ニューヨーク育英学園学園長

岡本 徹



(絵 2016年度
全日制小学部第5学年
石ヶ原 ジュリアン)

～今号の目次～

- P.1 いろはにほんご教室よりお知らせ
- ・ 学園長よりご挨拶
- P.2 N J キャンパス全日制部門
「幼小一貫教育」
- P.3 全日制英語科からのお知らせ
- P.4 NY 育英学園全部門
2015年度卒業式
・ 第3回米国国務省との交流
・ フレンズアカデミー講演会
- P.5 第4回東日本大震災遺児サマー留学プログラムについて
・ 2016年度サマーデイキャンプ・レイクグリーリー宿泊キャンプのお知らせ
- P.6 JCSのご案内
- P.7 NY 育英学園主催第3回トリエンナーレ自由の女神アート作文コンクール募集のお知らせ
- P.8 & P.9 日曜口特集
・ サンデースクール
・ フレンズアカデミー
ウィークエンドスクール
シリーズ「教育座談会」
(お父さん編その3)
- P.10 2016年度オープンハウスのお知らせ
・ 2016年度各種検定のお知らせ
- P.12 NY 育英学園ファンレイジング報告
・ NY 育英学園職員ペンリレー
シリーズ「先輩から一言」
・ 4コマ漫画 (作: コマタキレコ)

NY 育英学園 NJ キャンパス全日制幼小交流活動

幼小一貫校である本学園の魅力は、何といても幼児部と小学部の結びつきです。年間を通して、様々な交流会を持ちながら両学部で関わり合い、連携を取りながら学園生活を送っています。学期ごとに行われる交流昼食会では、互いの教室を訪ねてゲーム大会や、小学生による絵本の読み聞かせを行ったり、また、一緒に昼食を取ったりしています。その他にも、4年生と年少組では、年に1回交流遠足を持ち、近隣のネイチャーセンターへ森散策に出かけています。自然の中でお互いの発見を楽しみ合うことが出来る校外ならではの体験です。また、4年生が小さな年少さんを助けながら散策し、学年を隔てた縦のつながりの大切さを感じる行事でもあります。2月になると節分の集いが行われ、そこでは6年生が鬼役に扮して幼児部の子ども達の豆まきに一役買ってくれます。手作りのお面や、趣向を凝らした衣装を身に着けた6年生の鬼を、幼児部の子ども達は楽しみながら退治し、卒園卒業前の貴重な交流となっています。時には、年長組が1日小学部の授業見学に行くなど、幼児部の子ども達が小学部の教室に入って小学部の雰囲気を身近に体験する特別行事もあります。

このように本学園には、日々お互いの存在を身近に感じながら、目上の人を敬うことや小さい子に思いやりを持つことを自然と身に付けられる環境が備わっています。



年長組による小学部授業見学



幼小交流ゲーム大会



年少組と4年生による交流遠足会

幼小一貫教育校における水泳の時間とは・・・

幼児部・小学部問わず「水を怖がるんです。」「上手に泳げるようになって欲しいんですけど、どうすればいいですか?」などといった相談をたくさんの保護者の皆様から頂きます。そんな悩みに応えるべく NY 育英学園の全日制部門における水泳指導についてご紹介致します。まず当校では幼児部の年長組から水泳指導が始まります。週に1回約1時間(幼児部は50分)、春から始まり夏の終わりまで、回数にすると約10回程度の水泳の時間です。回数だけで考えるとそこまで多くないのに、なぜそこまで子ども達の水泳が上達するのでしょうか。実際、多くの保護者の皆様から、「NY 育英学園の水泳教室のおかげで、水泳が本当に上手になった。」とよくお褒めの言葉を頂きます。そこまで多くない指導回数でも、子ども達の能力を最大限に伸ばせる秘密は、教員による密な指導体制が大きく関係しています。幼児部の場合だと子ども4人に対し教員が1名、小学部の場合ですと子ども10名程度に対し教員が1名という割合できめ細やかな指導を心掛けています。幼小ともに泳力別に分かれ、子ども達にとって無理なく、今必要としている技術を指導経験豊かな教員の指導の下で適切に学ぶことが出来ます。まさしくこれこそが子ども達の水恐怖症を克服するための原点であり、泳力増強の秘訣でもあります。そんな子ども達が身に付けた泳力は、オープンハウス等でもご覧になることが出来ます。それぞれの級別で子ども達なりに頑張っている様子をぜひ一度ご覧ください。

水泳発表会

(オープンハウス)

右：上級
左：初級



お問い合わせ/全日制幼児部主任：小山 由里子・全日制小学部主任：川添 太久真

全日制で日本語も 英語も頑張りました!

～全日制に通い続けながら、英検準1級に合格～



かわべ そうた
河部 蒼太 君 NY育英学園全日制 2015 年度小学部卒業

特別インタビュー第3弾では、2011 年4月にNY育英学園全日制小学部2年生に編入してからずっと全日制で学び、今年みごと英検準1級に合格して卒業に花を添えた、河部蒼太君とそのお母様にインタビューにお答えいただきました。

まずはしっかり日本語を身に付けさせたい

「NY 育英学園全日制を選んだ理由は？」

母：アメリカに来るので英語を身に付けてほしいとは思いましたが、まだ低学年だったので、まずはしっかりと日本語を身に付けてほしいと思い、現地校ではなく全日制を選びました。その中でも育英を選んだのは、英語の授業が充実していると聞いていたからです。

「蒼太君が編入してきた 2011 年度から毎日の英語に加え、丸一日英語で勉強する金曜英語の日が始まりました。」

母：最初はどのようなのだらうと思いましたが、いきなり現地校のようにその学年の教科を英語で学習するのではなく、英語のレベル別クラスで勉強することができたので、負担なく楽しく学習できたようです。

NY 育英（全日制）を離れたくない

「そのままずっと全日制に通い、この春晴れて卒業となりました。」

母：途中、せっかくなので現地校に行かせようかとも迷いましたが、本当に学校が大好きで、日本語の授業も英語の授業も楽しくて、英語も毎日勉強できてネイティブの先生ともコミュニケーションできるようになっていったので、このままでも大丈夫だろうと卒業まで全日制に通うことに決めました。



蒼太：それに、育英では友だちや先生と身近に接することができ、授業もいろんな行事も本当に楽しくて、育英から離れたくありませんでした。

←ニューフレンズデーでの代表挨拶

とにかく英語が大好き

「最初から英語に興味があって、いつも積極的に勉強していましたね。」

母：入ったばかりの頃、算数や国語よりも英語が好きと言って、私たちがもびっくりしました。

「普通の英語の授業の他にも、アフタースクールの ESL やりんごラーニングセンターのプライベートチュータリングのクラスで英語を勉強していました。」

蒼太：英語をもっと話せるようになりたいと思ったし、英語のテレビも見ていてどんどん分かるようになって楽しくなったので、もっともっと勉強したいと思いました。

母：テレビといっても Cartoon Network とかですが(笑)。高学年になってからは CNN の Student News など喜んで見るようになりました。英語だったらいいよと家でも1時間くらいは見せてあげています。育英では日本語をしっかりと勉強しつつも英語が充実していてありがたいと思うのですが、どうしても英語に触れる時間が現地校よりは少ないので、少しでも英語に接する時間を増やせるよう心がけています。夏休みはりんごラーニングセンターの英語サマーキャンプや、現地の野球キャンプにも参加しました。やはり興味のあることから英語に触れさせるのはいいのだと思います。

英検が励みになった

「育英に来て1年後には英検の4級に合格、その後2級までとんとん拍子で合格しましたね。英検はどのように役立ちましたか？」

蒼太：目標に向かってチャレンジし合格するという達成感があったし、みんなの前で表彰を受けるのが自信になりました。それに英検の勉強をしながら単語をたくさん覚えたとし、文法が整理できて、リーディングや会話力も上がって、クラスも一番上のバイリンガルクラスになり、ネイティブの先生ともいろんな

話ができるようになったのがよかったです。

「4年生で英検2級に合格してから、準1級にも挑戦し続け、6年生の冬についに準1級にも合格しました。頑張り続けられた動機は何ですか？」

蒼太：とにかく日本に帰る前に準1級に受かるのが目標でした。それに、将来アメリカに戻って来た時も自信を持って来られるように英語を上達させたかったので、準1級の勉強をして頑張ろうと思いました。あと同い年くらいの現地校の子たちがたくさん準1級を受験していたし、1つ上の全日制的先輩が2年前に準1級に受かったので、僕でもできると思いました。

日本に帰ってから英語力を どう維持・向上させるかが課題

「近い将来に日本に帰ることになりますが、英語力をどう維持しようとお考えですか？」

母：今はそれが私たちの課題です。日本に帰ってからも英語を勉強し続けて、高校生になる頃にはオリンピックの英語ボランティアをしたいと思うくらいになってほしいです。

「NY育英学園に通う後輩たちへメッセージを！」

蒼太：育英では、なかなか体験できないことをたくさん体験できるので、それを大切にしていって、日本語も英語も頑張ってください。



学園祭での英語劇、6年生の仲間たちと

～旅立ち～ ニューヨーク育英学園 卒業式

お問い合わせ／全日制教頭：大村 功

ニューヨーク育英学園全日制部門（ニュージャージー州イングルウッドクリフス市）小学部の卒業式が3月4日、翌週の3月11日には幼児部の卒園式が行なわれました。

小学部の卒業式では、会場に在校生と小学部全担任が描いた卒業生の似顔絵が壁いっぱい飾られ、温かさがあふれる中での式となりました。式の途中、感極まって泣き出してしまう在校生がたくさんおり、卒業生に対する想いの深さがとても窺えました。また、それを受け止める卒業生と保護者、そして教職員の目にも涙が光っていました。式の最後は卒業生による「旅立ちの言葉」。学園生活での様々な思い出や保護者、教職員への感謝の気持ちを力強く述べ、「私たちは力強く旅立っていく」の言葉と共に6名の卒業生が未知の世界へ旅立ちました。幼児部の卒園式では、まだあどけなさが残るかわいい25名の園児たちが学び舎から巣立ちました。退場時に園児たちそれぞれが、自分の親への今までの感謝の言葉や思いを力強く語りました。その立派な姿は参列した多くの保護者や教職員の涙を誘っていました。3月17日にはアフタースクール小学部からも1名の卒業生が巣立ちました。

さらに、3月19日（土）、20日（日）には育英サタデースクール、ニュージャージー、マンハッタン、ポートワシントン各校やサンデースクールの卒園・卒業式が行なわれ、総勢157名の園児・児童たちがそれぞれの世界に向かってニューヨーク育英学園を旅立っていきました。



第3回 米国国務省外交官と交流

2016年4月、米国国務省 Foreign Service Institute が企画する Japanese Language Immersion Trip（サバイバルスキル研修）に本年も本学園が協力しました。この研修は、米国外交官が今後の日本勤務に向け、日本の日常会話や文化、マナーを学ぶ為のものです。

今回は、米国外交官13名がニューヨーク育英学園全日制部門幼児部・小学部の始業式に参加し、日本語でスピーチをし、小学部各教室で交流会も持ちました。これまでスピーチの練習に一生懸命取り組んでこられたとのことで、当日は堂々たるスピーチを披露いただきました。また、始業式の後は、日系スーパーマーケット（ミツワ）にてボランティアの保護者の方2名と昼食会を開き、日本食のお食事や日本の商品のお買い物を楽しんでいただきました。さらに、本学園在籍者の11家庭よりボランティアとして、外交官研修生を各ご家庭の夕食に招待していただきました。日本人家庭での温かいおもてなしにとても感動し、また勉強させていただいたと喜んでおりました。

ご協力いただきました保護者の皆様にはこの場をお借りしまして御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

外交官研修生はその後日本語終了試験合格後、それぞれが勤務地へ赴任されます。研修生の方々がこれらの経験を活かし、活躍されることを願っております。

NY育英学園では、引き続き様々な国際交流ができる場を作っていきたいと思っております。

今後も皆様のご協力をいただけましたら幸いです。どうぞ宜しくお願いいたします。



お問い合わせ／交流担当：山田 亜香里

フレンズアカデミーたんぽぽ幼稚園開校記念講演

内田伸子先生 講演会

「バイリンガル教育について」

子どもの言葉と心はぐくむために必要なこと」

2016年3月18日（金） 午前10:00-12:00

言葉は、創造的な心とともに育まれるもの。3歳から5歳にかけての発達段階を踏まえながら、言葉を支える子どもの心を伸ばすには、楽しい、おもしろいと感じられる体験の積み重ねが大切であることを、多くの実践例、リサーチ例をもとにお話していただきました。自らの子育ての実体験に裏打ちされた内田先生の研究者としての専門的な見解を、幼児期の子育て真っ最中の保護者である参加者一人ひとりが、傾きながら聞き入っていました。また教育者として母として伝えたいことをたくさんお持ちの内田先生の講演会は、2時間では足りないくらいでした。保護者に向けて頂いた最後のメッセージは、「読み聞かせの大切さ」であり、内田先生は次のように締めくくられました。

「お母さん自身が共感できるお話を、子どもと一緒に宇宙を旅するつもりで読んであげてください。」

質疑応答は時間を延長して行いましたが、それでも語り尽くせない思いが次々と溢れる様で、伝えることを心から大切にされている先生に参加者全員が魅了されました。



内田伸子先生プロフィール

十字学園女子大理事および特任教授、筑波大学客員教授

お問い合わせ／フレンズアカデミーディレクター：河野 茂

～東北児童招待～

第4回アメリカサマー留学

ニューヨーク育英学園
では現在も東日本大震災で
被災した子ども達を
応援しています。



ニューヨーク育英学園では、2013年夏より東日本大震災で被災し、家族の一員をなくした児童2名を本学園サマーキャンプに招待しています。育英サマーデイキャンプで、他の参加者とともに様々なプログラム（水泳、遠足、スポーツ大会、英語クラスなど）に参加してもらい、週末はニューヨークや近郊へ観光に出かけ、アメリカでたくさんの経験、思い出を作ってもらおう企画となっております。

第一回目より全体協力いただいております、あしなが育英会様を始め、たくさんの方々のご支援をいただき、おかげさまで本年度で第4回目を迎えます。また、本年度もホストファミリーとして本学園在籍者家庭でボランティアの受け入れを予定しております。皆様の温かいご協力を賜り、大変ありがたく、また嬉しく思っております。招待児童が安心して留学できる環境を作り、楽しく充実した10日間を過ごしてもらえ、しっかりとサポートして参ります。

本学園では、引き続き震災遺児のアメリカサマー留学支援をしていただける企業、団体、個人の皆様の温かいご協力をお待ちしております。

ご興味のある方は、是非、ご連絡をください。



ASHINAGA
あしなが育英会

お問い合わせ先：

担当 山田 亜香里

Phone: (201) 947-4832 (学園事務局)

E-mail: Invitation.nyikuei@gmail.com

第34回 育英サマー 受付中

デイキャンプ・宿泊キャンプ・野球教室・いろはにほんご教室

この夏もNY育英学園ニュージャージー・キャンパスにおいて様々なプログラムを用意しています。詳細は学園ホームページ www.japaneseschool.org をご覧ください。（既にウエイティングのクラスがありますので、お申し込み前に申し込み状況をご確認ください。サマーQ&Aもご参照ください。）

お問い合わせ先 サマー総合ディレクター：小山 由里子 (SummerCamp.nyikuei@gmail.com)

<デイキャンプ> 前期 6/27-7/15, 後期 7/18-7/29

日系のデイキャンプとしてはこの地域最大で、毎回、大好評です。幼児部3歳から小学部6年生までが前期3週間、後期2週間、NY育英学園ニュージャージー・キャンパスを拠点に水泳教室、アート&クラフト、運動、理科実験、言葉の学習、フィールドトリップなど、毎日盛りだくさんの体験をします。また、早朝及び延長のお預かりも可能ですのでご家庭の事情にも柔軟に対応致します。オプションとして給食もご利用できます。



<野球教室> 前期 6/27-7/15, 後期 7/18-7/29

男女問わず、野球が初めてという子ども達も安心して参加できます。日本で少年野球を長年教えてきた指導者のもと、野球のルール、技術や道具の扱い方から、礼儀や集団でのマナーまで、基本から安心して学ぶことができます。また、野球以外のスポーツも練習に取り入れ、体を動かす楽しさを知り、体力アップもめざします。毎回、ゲームを取り入れ、楽しみながら学べるように工夫しています。



<宿泊キャンプ lake Greeley Camp> 6/26-7/10

ペンシルバニア州にあるプライベートキャンプ場でアメリカンキャンプを満喫できます。NY育英学園がキャビンを貸し切り、日中はアメリカ人の指導のもと、キャンプ場が提供する様々なプログラムに参加、夜は学園のキャビンに戻り、日本語で生活できます。NY育英学園の教員（男女各1名）が2週間泊まり込んで一緒に生活するので、安心です。



<いろはにほんご教室> 前期 6/27-7/15, 後期 7/18-7/29

NY育英学園独自のプログラム編成（①Japanese, ②Nihongo, ③国語）の3つのクラス分けて学習します。英語での説明も加えた Japanese コースから日本の学齢と同レベルの国語レベルまで様々なニーズに1クラス8名の少人数クラス編成で応えます。日本の学校の体験入学と同じことが、ここニューヨークにいながら可能です。この夏に日本語の力を伸ばしましょう。



ニューヨーク育英学園N J キャンパス サンデースクール

ニューヨーク育英学園は1979年11月に創立されて以来37年間、海外子女教育のパイオニアとして地域の日本人子弟の教育に携わってきました。日本の文部科学省が定める幼稚園教育要領・小学校学習指導要領に準拠した保育・授業を行うと共に、様々な体験や経験を通じ、バランスの取れた知育・徳育・体育を習得することができます。本学園で学んだ卒業生たちは、ここで培った確かな日本語の学力と英語力、そして豊かな人間力を生かし、日本国内外で様々な分野で有用な人材として活躍しています。

サンデースクール（日曜日補習授業校）は本学園のランチの1つとして2008年4月より開校しました。2016年4月で創立8周年目を迎えます。開校当初は少人数からのスタートとなりましたが、現在は全在籍数が100名に迫る規模となっています。

幼児部・小学部の活動・指導内容（抜粋）は以下のようになっています。

幼児部（幼稚園教育要領に基づく教育活動）

- ①歌遊び ②言葉遊び ③折り紙
③日本の伝承遊び ④仲間づくりゲーム
⑤製作活動 ⑥紙芝居 ⑦クッキング ⑧運動



小学部（学習指導要領に基づく教科指導）

- 国語（文字・読解・作文・討論・発表・表現活動等）
算数（四則計算、図形、統計、測定・測量、分数・小数等）
生活（理的分野【生物、植物の観察等】社会的分野【社会の役割や仕組み等】）
社会（地理、産業、歴史、時事、公民等）
理科（科学【生物・植物】、力学、化学等）



また、入園式、こどもの日、運動会、もちつき大会、節分、雛祭り、保育参観日、卒園式などの行事が年間を通して行われています。

サンデースクールの一番の魅力は、日曜日の午後からの保育・授業という点です。比較的ゆったりとしたペースで日本語を学ぶことや日本語指導による習い事を1日にまとめて参加することができるという点であります。そこでサンデースクールに通う2人の小学生児童の1週間の動きと日曜日1日の過ごし方について以下にまとめてみました。

— A君の1週間 —

月曜日～金曜日

- 現地校 → 帰宅後、現地校の宿題（30分×5日） 学習時間 計150分
サンデースクールの宿題（30分×5日） 学習時間 計150分

土曜日

- 在宅 → 午前中に現地校の宿題やサンデースクールの宿題の残りをを行う。
※午前中の学習時間1時間30分程度
午後は家族とゆっくりと過ごす時間

日曜日

- 在宅 → 午前中は漢字テストの予習（30分程度）
終了後は、登校までの間ゆっくりと過ごす。
○サンデースクール → 13:00～17:00 日本語による教科学習。

— Bさんの日曜日 —

- 9:45 ～ 10:15 ピアノ教室（日本語による指導）
10:15 ～ 12:20 寺子屋アカデミー（習字〔毛筆・硬筆〕、そろばん、理科実験）
12:20 ～ 13:00 ベビーシッタールームで食事・休憩
13:00 ～ 17:00 サンデースクール 日本語による教科授業
17:10 ～ 18:00 ダブルダッチクラブ（日本語による指導）

以上のように、サンデー授業日に合わせて週日・週末に宿題や課題を進めることができること、比較的ゆったりとしたペースで日英両語を学べることや日本語による習い事が1日にまとめてできることなどが、サンデースクールの魅力です。

お問い合わせ／サンデースクールディレクター：大村 功



教室名	幼児教室	いろは 国語教室	いろは にほんご教室	国語算数教室	ピアノ教室	高校生ステップアップ 講座
時間	午前 9:30-12:00 午後 1:30-4:00	午前 9:30-12:00	午後 1:30-4:00	午前 9:15-12:30	午前 9:30-12:00 午後 1:00-16:30	午後 4時から
対象	3歳以上の幼児	小学生以上	小学生以上	小学1・2年生	3歳以上	高校生
クラス数	午前 2クラス 午後 2クラス	午前 1クラス	午後 2クラス	各学年 1クラス	30・45・60分 の個人レッスン	各種テストに 備えます
定員	各 15名	12名	各 12名	各学年 12名		



幼児教室

友だちと遊んだり、たくさん話したり、日本の伝統的なものを作ったりします。日本語の分かる子どもにしたい、日本語にできるだけ多く触れさせたい、そんなご希望をかなえていきます。一人ひとりを大切に、お子さんの笑顔のあふれる活動をしていきます。

午前

いろはにほんご教室 国語教室

独自の国語カリキュラムで国語の力をつけていきます。アメリカで生活していても、日本でも通用する日本語をめざして学習します!



国語算数教室

日本の学校で使われている教科書で国語と算数を学習。サタデー・サンデースクールと同じ学習量です。

楽しい季節イベントです!

日曜日は日本語で遊ぼう

10:00-11:30

5月1日 子どもの日の集い
8月21日 夏祭りごっこ
9月11日 運動会ごっこ
12月11日 年賀状作り
1月29日 節分の集い
2月26日 ひなまつりの集い

ピアノ教室

ベテランの教師陣。3歳以上、初心者から上級者まで。



幼児教室

クラスの概要は午前と同じです。

いろはにほんご教室日本語教室

日常生活で日本語を話す機会が少ないお子さんや日本語を外国語として学ぶお子さんのための教室です。歌やゲーム等のいろいろな楽しい活動を通して、語彙や言い回しを増やしていきます。そして日本語や日本の文化への関心を高めます。

午後

各種検定対策講座

実用英語検定、漢字能力検定、数学技能検定、日本語検定、書写検定が、ニューヨーク育英学園で実施されます。その対策講座をフレンズアカデミーで開きます。

高校生ステップアップ講座

Physics や Calculusなどを学習。各種テストに備えます。



映画鑑賞会もあります。



聞く・話す・読む・書くの4技能がそろった
バイリンガルになるためのヒント

日本語学習時間を固定して習慣化

小学生になって書く学習が始まったら、一日のうちに日本語を学習する時間を決めて、何があってもとにかく続けさせることが大切です。聞く・話す・読む・書くの4技能がそろって高い、質の高いバイリンガルは、この習慣によって生まれていきます。この習慣を維持できる力は、他の学習にもプラスとなって表れるでしょう。



Tips for Making Your Children Real Bilinguals

Getting Japanese learning into the schedule

Please set a time dedicated to Japanese study when your child starts to learn writing in school. It is important to emphasize it unless there is a good reason. The well balanced highly skilled bilinguals in all four abilities, listening, speaking, reading and writing, are created by keeping this habit of routine. The power of keeping this routine will be helpful for their other learning process as well.

育英サタデースクール主催
バイリンガル子育て体験 講演会・座談会シリーズ

----- お父さん編 その3 on October 25, 2014 -----

Conference between fathers and parents about raising bilingual children
--- A father's view No.3 ---

Since 2014 IKUEI has been hosting bilingual round table discussions. This is a report of the 3rd discussion by a native English speaker.

2014 年度から始まった育英サタデースクール主催のバイリンガル子育て講演会・座談会の第3回目。今回は英語が母語のアメリカ生まれのお父さんによる座談会の様子（その3 父親3）を報告させていただきます。

<第3回目のテーマ>

- ①「わが家が現地校とサタデースクールの組み合わせを選んだ理由
- ②「現地校とサタデースクールとの両立のため英語話者の私(父親)が心がけたこと。」

話題提供者

父親1：サタデー中学部にお子様が在籍。奥様は日本語が母語。

父親2：全日制部門小学部を卒業後、サタデースクール中学部にお子様が進学、在籍。奥様は日本語が母語。

父親3：サタデー小学部に2人のお子様が在籍。奥様は日本語と英語のバイリンガル環境で育つ。

<3rd discussion>

- 1) The reason why we chose a combination of local school and Japanese Saturday school.
- 2) How I have supported my children growing up bilingual in local school and Japanese Saturday school.

Our 3 guest speakers:

Father 1: American father and Japanese mother who has their kid in Junior High School of Saturday school.

Father 2: American father and Japanese mother who has their kid in Junior High school of Saturday school. The child graduated from NY Ikuei Elementary Day School.

Father 3: American father and Japanese/English bilingual mother who has two kids in Elementary school of Saturday school.

<司会 Moderator: Mr. Kozuma>

This workshop is one of the workshops I've been dreaming of as a father. As a father we have lots of ideas and suggestions. Today they would like to share some of their experiences and ideas they have with raising bilingual children. Please feel free to ask them any questions you have. Each speaker has about 10 minutes to talk about the reasons they decided to send their daughter or son to our school and how they support their children growing up bilingual.

<Third Speaker: father 3>

Our situation is slightly unlike the others in that we have two children. Each child is unique so the experience has been different in each case. We started out in New York City. My wife grew up in Japan but was educated in an English school in Japan. Then she went to an University Law school in the States. Her English is as good as mine. Her English is also as good as her Japanese. We started out at Friends Academy in 2004 when my first daughter was 2 years old. It wasn't even a discussion. We just thought maybe our goals were a bit more modest in that we just wanted her to be able to communicate with her family in Kobe.

We went through the whole process of looking at the New York school systems and it was insane. There was a school who wanted written references for a three year old. We were looking to leave the city and began looking at a couple Japanese schools in the New York area. In the mean time my daughter had switched from the school on 54th street to coming out here. There was no question that this was the right place. The atmosphere is wonderful. It felt like a good community for the children. The students are great and the teachers are very attentive. This school is the reason we moved to New Jersey instead of New York. We just thought it was so much better.

When it came time for Kindergarten I thought we should continue going full time but my wife wanted to have my oldest daughter go to a public school. I guess you could say we were not driven to make sure that the kids would become fully bilingual. When my older daughter was a

baby, my wife would say everything in Japanese first and then in English but when my second daughter was born, it wasn't as easy. It was mostly English because the older sister is already speaking English and the atmosphere and environment is all in English.

Right now both kids go to a public school. My older daughter has been here for 10 years. It hasn't all been easy but I think one great opportunity is the friends she has made here. There are four families from school that have gone back to Japan that we continue to see when visiting Japan. One benefit I believe is that if your child is in a public school, private school or English school and they attend Saturday school here, it's almost like they can reinvent themselves. They are surrounded by a whole different group of kids and friends. It's something we have noticed and valued. If one is not doing so great at school it's a relief to be able to come over here.

My Japanese is not very good. I studied a little bit at the Japan Society before we had kids but it was just impossible for me to keep up with it. My wife goes over all the Japanese work with our children. Second grade has sort of been a poor transition grade for each child. The battle was epic but we got past that when in third and fourth grade the kids began to pick up interest in studying on their own. It's one of the things that we have always wanted. We were always trying to get them to self motivate themselves to learn Japanese. Also to actually have a reason to continue learning Japanese besides the fact that your mother and father are telling you to. One reason has been my kids love Japan. We go there every summer for four to six weeks and they always want to enjoy the culture.

We both agreed that the more they know the better. We are fine that they are not fully native speakers. We are just driven to make sure that they are in the top notch Japanese school and English school. English school is very much been a priority for us. A point of concern we have is that we don't want the kids to associate stress and unhappiness with the Japanese school. We want them to continue but we don't want them to have any negative responses such as, "I can't understand any of the kanji, How many do I have to write tonight?" Our approach has been soft but they do improve and enjoy school. Even if they aren't doing so well, they are still learning and that is all we have been trying to accomplish.

As far as how we've managed to keep the kids bilingual. It has been different and becomes difficult when you get to the second child. You realize you don't have quite the same amount of time to say everything in English and repeat it again in Japanese. You're lucky if they're eating and wearing matching clothing. The experience has been different for each child. My younger one hasn't been as enthusiastic about Japanese school but the older one made a special social group of Japanese friends.

<Kozuma: >

Each father has a different approach on raising a bilingual child. The first speaker's daughter went to Saturday school and American school from the beginning. The second speaker's son came to our Elementary Day school. At 6th grade, he transferred to American school while attending our Saturday school. The third speaker's experience is almost in-between the first two speakers. He sent his daughters to our Day Preschool and then switched to American school while attending our Saturday school. Please exchange your ideas and concerns. (continuing to Q&A with other parents)



<英語を母語とする父親の関わり方を3回に渡りお伝えしました。次回は卒業生から後輩に向けての座談会を計画しています。>Contact: JCS Saturday School NJ Director/Masahiro Kozuma 上妻 雅浩

第1学期

5月10日(火)	保育参観日(年長8:40~11:20)
5月11日(水)	保育参観日(年中8:40~11:20)
5月12日(木)	保育参観日(年少8:40~11:20)
5月14日(土)	小学部運動会(9:30~2:45 全日・サタデー・スクール合同)
*予備日5月15日	場所: Winton White Stadium: Durie Ave. Englewood, NJ 07631
5月17日(火)	学園見学ツアー(幼児部・小学部ともに9:10~12:20)
5月20日(金)	学園見学ツアー(幼児部10:30~11:15・小学部9:10~12:20)
6月5日(日)	日曜参観日(幼児部9:00~10:25・小学部10:40~12:20)

第2学期

9月15日(木)	オープンハウス・校内アートコンクール鑑賞会(小学部9:10~3:10)
9月16日(金)	オープンハウス(英語の日)(小学部9:10~2:25)
9月18日(日)	幼児部運動会(10:00~1:30)
*予備日9月25日	
10月4日(火)	保育参観日(年少8:40~11:20)
10月5日(水)	保育参観日(年長8:40~11:20)
10月6日(木)	保育参観日(年中8:40~11:20)
11月19日(土)	学園祭(幼児部9:00~10:30・小学部10:30~3:30) 場所: North Cliff School
11月30日(水)	学園見学ツアー(幼児部・小学部ともに9:10~12:20)
12月2日(金)	学園見学ツアー(幼児部10:30~11:15・小学部9:10~12:20)

第3学期

1月17日(火)	保育参観日(年長8:40~11:20)
1月18日(水)	保育参観日(年中8:40~11:20)
1月19日(木)	スケートオープンハウスイベント(小学部9:10~3:10)
1月19日(木)	保育参観日(年少8:40~11:20)

※マークがある日は無料の送迎バスをご用意しております。

※日程や場所は変更される場合がございます。



2016年度 NJ キャンパス全日制 オープンハウスのご案内

ニューヨーク育英学園では、たくさんの皆様
に本学園について知って頂くために、年間を通じて
オープンハウスを実施しています。また、行事に
よっては、無料のスクールバスをご用意してお
ります。それぞれの行事詳細につきましては、学園
ホームページお知らせ欄にてご案内いたしますの
で、合わせてご確認ください。

また、オープンハウスではなくても、ご希望が
あれば見学や体験入園入学などを随時受け付け
ておりますので、どうぞお問い合わせください。

皆様のお越しをお待ちしております。

お問い合わせ/NJ全日制事務主任: 園田 雅香

NJ キャンパス事務局

201-947-4832

DaySchool.nyikuei@gmail.com



ねんどかくしゅけんてい

2016年度各種検定スケジュールのお知らせ



お問い合わせ/検定担当: 舩田 和美

ニューヨーク育英学園では、実用英語検定の試験実施運営に加え、漢字検定、書写検定、数学検定、日本語検定を実施しています。これらの
検定を取得していると、推薦入試時に内申点が加算されたり、優遇されたりといったメリットがあります。

*2016年度の各種検定スケジュールは下記でご確認ください。

*申込書は学園のホームページからダウンロードできます。プリントアウトしてお申し込みください。(学園 HP 各種検定ページ <http://japaneseschool.org/exam/index.php>)

*検定の過去問題や練習問題を盛り込んだ検定だよを毎月1回発行しております。ぜひお子様と一緒に検定問題に挑戦してみてください。

実用英語検定試験			2016年度より問題形式が変わります。詳細は英検HPまで。
	検定日	模擬試験(1次のみ)	
第1回 1次	6月11日(土)	6月1日(水)	
	2次	7月10日(日)	5月28日, 6月4日(土)
第2回 1次	10月8日(土)	9月28日(水)	
	2次	11月6日(日)	9月24日, 10月1日(土)
第3回 1次	2017年1月21日(土)	2017年1月11日(水)	
	2次	2017年2月19日(日)	2017年1月7日, 1月14日(土)

2016年度より、フレンズアカデミーでも実施いたします。

日本語検定		
	検定日	いろはにほんご教室では、日本語検定を取り入れているクラスもあります。
第1回	6月19日(日)	
第2回	11月13日(日)	

漢字検定		
	検定日	模擬試験
第1回	6月4日(土)	5月28日(土)
第2回	10月29日(土)	10月22日(土)
第3回	2017年1月28日(土)	2017年1月21日(土)

1, 2, 3, 4
5, 6, 7, 8, 9, 10

10月30日実施の第2回検定では、
数学検定を英語で受けることができます。

実用数学技能検定		
	検定日	模擬試験
第1回	6月19日(日)	5月28日(土)
第2回	10月30日(日)	10月22日(土)
第3回	2017年1月29日(日)	2017年1月21日(土)



2016年度より、全級をNJキャンパスとフレンズアカ
デミーで実施いたします。また、硬筆3, 4, 5級は
M校、PW校でも実施します。

書写検定		
	検定日	模擬試験
第1回	6月18日(土)	6月11日(土)
第2回	11月12日(土)	11月5日(土)
第3回	2017年1月28日(土)	2017年1月21日(土)

2016年度より、これまでのNJキャンパス、M校、PW校に加え、
フレンズアカデミーでも実施いたします。

前号(1月11日付)以降にご寄付・ご協力頂いた企業・個人の皆様

奨学金基金&寄付金

(個人の皆様)

MR. NAKAMURA, IKUYA
MS. SASAKI, HIROKO
MR. & MS. TAKAKU
Dr. & Mrs. GAINOSUKE SUGIYAMA

学園グッズ・カレンダー購入

MS. HASEGAWA, MADOKA
MR. ISHIBASHI, TAKEAKI
MR. KIKKAWA, TSUYOSHI
MR. KUBOTA, HIROSHI

(2016年3月31日現在)

MR. ANDO, SEIICHIRO
MR. YOSHIDA, REIZO

(企業の皆様)

CANON U.S.A., INC.
AMAZON.COM, INC
TARGET
AMNET NEW YORK, INC.
IGIVE.COM

～皆様のご支援に心より感謝申し上げます～

★全てのご寄付は米国での税控除の対象となります。
All contribution is tax deductible. 501(c)(3) organization
★本学園ホームページ JAPANESE.SCHOOL.ORG から
PayPal をご利用できます。



お問い合わせ/ファンドレイジング担当: 半場 綾子・角 明江

職員
ヘンリー



20年以上前、国際結婚のために渡米した私。家族や友人と離れ、ホームシックになりそうだった頃、ニューヨーク育英学園と出会い、勤めさせていただくことになった。岡本学園長と私の父親の誕生日が一緒だと知った時は不思議な縁を感じた。インターネットはもちろんのこと、携帯電話も未だなかった時代。学園まで通勤するのに地図を広げ、道を覚え、こわごわ高速道路を車で走った。400ドルで買った中古車に乗り、出勤し始めて間もなく、夜の高速道路路上で故障。暗闇の中、路肩から茂みを越えたところにある一軒家に電話を貸してと尋ねたこともあった。電話越しでは主人が心配しながら叫んでいたのを思い出す。その後も、大雪や凍結の怖さを知らず運転し、怖い思いをししながら学園に到着。もちろん休校。連絡が取れなかった私を気遣ってくださり、上妻先生が学園まで来て待っていて下さっていたのには、疲れて冷え切っていた心が温まった。道を間違えジョージワシントンブリッジに入ってしまった、料金所の左端から右端のエマージェンシーゲートまで、ブーイングされながら横切ったことも、今となっては笑い話である。渋滞の多い長距離運転で腰痛が始まったことから、ヨガを始めた私。体のバランスが良くなるにつれて、腰痛もなくなっていくことに喜びを感じ、ぜひとも子ども達にヨガを教えたいと思うようになった。表現遊びが好きな幼児と楽しくヨガができることに、今とても幸せを感じている。この学園を通してたくさんの人々と出会い、様々な経験ができ、学ばせていただいている私。心より感謝している。特に、私の尊敬する保育者、故・小山(こやま)仁美先生のきめ細かな保育は、とても勉強になった。仁美先生は、幼い頃から保育士になることだけを夢見て保育士になった方で、闘病中も幼稚園のことを気にされていた。私は、仁美先生から受け継いだバトンを、しっかり握りしめて、仁美先生の分も保育を楽しむことを誓った。出会い、別れそして出会い。辛い思い出も大切に、また新しい素敵な出会いができるようにと日々願っている。

記: サンデーNJ校幼児部担任/ブラッドフォード定子



こんにちは。私はタシュナー・愛・ケイミーです。NY育英学園のNJキャンパスにある全日制の幼児部に在籍していた経験があり、現在はその母校である全日制の英語科教員としてESLレベルの子ども達の指導に当たっています。また、土曜日はりんごラーニングセンターのサタデー英語補習校で、「もっと英語を勉強したい」「現地校に行ってみたい」という子ども達を指導しています。

バイリンガルになるということは、より多くの未来への扉が開き世界が広がります。もちろん、そうなることはたやすいことではありません。私の場合は、ここNY育英学園の先生方の多くのサポートで、自信を持ってバイリンガルになれました。アメリカ人の父と日本人の母を持ち、日本人としての基盤を固めながらもアメリカ社会で育ちましたが、自分のアイデンティティーで混乱することはありませんでした。

バイリンガルの先輩として、そしてNY育英学園に在籍していた先輩として、一番伝えたいことは「諦めないで続けることが大事」だということです。学年が上がるにつれ、学校の勉強がどんどん難しくなり、日本語学習もしくは英語学習を両立することがとても大変になります。どちらかの言語を諦めなくなる時があるかもしれません。でも、そんな時にふと将来を思い描いてみてください。大人になったときに「頑張ってたかったな」と思いますし、そんな環境においてくれたご両親にもきっと感謝します。私自身、正直辛い時も多かったのですが、両親や学校の先生方の多くのサポートで大変なことや辛いことを乗り越えてきました。英語と日本語を通して一生の友も増え、今でも国を超えて交友を続ける楽しみを持つことができるのも、頑張った証だと信じています。

語学はまさに、「継続は力なり」です。保護者の皆様、お子様を支え続けてください。皆さんも頑張ってください。

記: NY育英学園英語科/Kaimi Teschner

定子先生とともに。(運動会にて)



NY学園物語

『学園の桜は今年も満開』

Our Cherry Blossoms in Full Bloom



① Our school's cherry blossoms have reached peak bloom!



② If you can catch a cherry blossom petal falling from the tree, your dream will come true.

③ Really?



④ Okay. I'm going to catch one!

⑤ Me, too!



⑥ Wishing your dreams will come into full bloom!

BY コマタキレコ (KIREKOKOMATA)